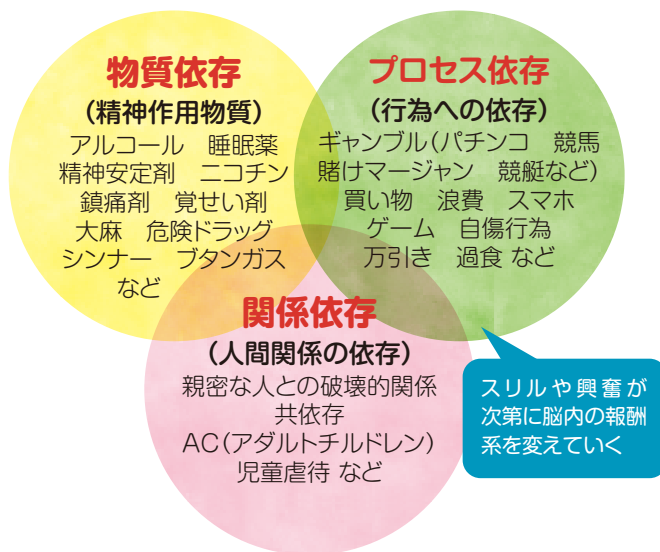


看護師（外来・病棟）・精神保健福祉士等の専門職による相談支援コーディネーターを配置し、関係機関との連携を含めた各種相談に応じるようにしています。

行為への依存(アディクション)とは？ ～依存対象の3区分と重なり



物質依存(物質使用障害)は、脳に作用し気持ちを良くさせる物質(アルコール・麻薬・覚せい剤など)を使うために、自分の意志で制御できなくなります。

そして、行為への依存は、ギャンブルや買い物などをする中で気分が変わるため、やり続けるうちに自分の意志では制御できなくなる病気です。

やり続けた結果、やめられなくなった状態が依存症です。良い気分になるために使うか、使わないと体やこころが不快になるので使う——この繰り返しです。

依存症すころく

- ・借金に行き詰まる
- ・家族に泣きつく
- ・家族が借金を肩代わりする、説教する
- ・「もうやらない」と誓う
- ・振出しに戻る

回復すころく

- ・借金に行き詰まる
- ・家族に泣きつく
- ・家族が支援先をアドバイス
- ・治療・支援につながる
- ・やめ続ける

ギャンブルセルフチェック (合言葉はLOST)

以下の4つの項目のうち、過去1年間のギャンブル経験で2つ以上当てはまればギャンブル依存症の危険性が高いといえます。

☐ Limitless

ギャンブルをするときには予算や時間の制限を**決めない、決めても守れない**

☐ Once Again

ギャンブルに勝ったときに、『次のギャンブルに使おう』と考える

☐ Secret

ギャンブルをしたことを誰かに**隠す**

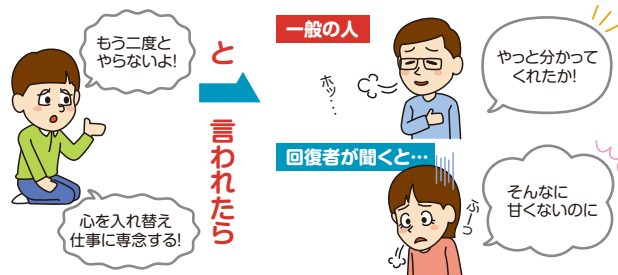
☐ Take Money Back

ギャンブルに負けたときに、**すぐに取り返したい**と思う

※田中紀子、松本俊彦、森田展彰「病的ギャンブラーとギャンブル愛好家とを峻別するものは何か」2018.12より引用

出典ギャンブル依存症問題を考える会

依存症の誤解 ケース 1



依存症の誤解 ケース 2



支援と治療に向けて～ご家族のために

相談

お一人で悩むことなく、相談をすると気持ちが楽になります。適切な相談機関を知り、ご家族が安心して話ができる場をもちましょ

知識

まず、家族が不適切な行為への依存の危険性を知り、依存症について正確な情報と知識をもちましょ

対応

本人が自分の依存症問題に気づいていけるような対応にはどのようなことがあるでしょう？ひたすら借金返済などの世話を焼きつづけるのは逆効果です

問題を抱えている人との間に適切な距離を取り、自身の安全とこころの居場所を確保しましょう。

先を歩む家族の仲間たちと出会い、自分のモデル(目標)を見つけてください。

県内の主な相談機関と窓口 解決に向けた一歩を!

鳥取県立精神保健福祉センター Tel(0857)21-3031
鳥取市保健所 Tel(0857)22-5616

※毎月第2金曜日午後16時30分に家族教室および専門相談を実施
倉吉保健所(中部総合事務所福祉保健局) Tel(0858)23-3147

※奇数月第2木曜日午後16時30分に家族教室を実施
米子保健所(西部総合事務所福祉保健局) Tel(0859)31-9310

※年5回、金曜日午後16時30分に家族教室および専門相談を実施
●最寄りの各市町村にも担当する課があります

《県内のギャンブル等依存症者自助グループ及びリハビリ施設》

GA 鳥取グループ 鳥取ダルク内 GA サービスコミティー
(11:30～16:30 ロック宛) Tel(0857)72-1151

GA 米子グループ (メール) gayonago-01@yahoo.co.jp
全国ギャンブル依存症家族の会 鳥取(うえの) Tel(090)2014-3897

NPO 法人民間依存症リハビリ施設 鳥取ダルク
<http://tottoridarc.com/> Tel(0857)72-1151

《借金問題に関する相談窓口》

法テラス 鳥取(日本司法支援センター) Tel(0570)078357
※IP 電話をご利用されている場合は、Tel(050)3383-5495

鳥取県消費生活センター 東部相談室 Tel(0857)26-7605
中部相談室 Tel(0858)22-3000

西部相談室 Tel(0859)34-2648